

(様式 1 - 表)

令和 7 年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	17	豊田市立 若園小 学校	代表	中澤 正志
------	----	-------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、i：その他（ ）】から選ぶ。

テーマ	全ての児童が「安心・安全」に過ごせる学校づくり	分野	i	その他
	サブテーマ	i(その他)は分野を右欄に記入	心と体の健康増進	
学校づくりの視点（ねらい）	全ての児童が「安心・安全」に過ごせる学校づくりのために、次の2点を視点とする。 1 相談体制を充実させることにより、児童が悩みを一人で抱えることなく、健やかに学校生活を送ることができるようにする。 2 地域講師や地域学校共働本部ボランティアによる学習支援、学習環境整備を進め、子どもたちが楽しく安全に学ぶ環境づくりを推進する。			
活動内容・計画	1 相談体制の充実 （1）定期的なアンケートや教育相談の時間を確保し、児童が相談しやすい体制をつくる。 （2）スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、はあとラウンジスタッフに加え、心の相談員を配置することにより、学校内で担任以外の大人に相談できる機会を増やす。 2 学校支援活動 （1）クラブにおいて、地域ボランティアの協力を得て学習支援を行う。 （2）地域学校共働本部ボランティア等、地域人材を活用した児童の登下校の見守り、学習環境整備、教材づくり等の活動を活発にする。 （3）地域学校共働本部と地域ボランティアの連携を図り、より子どもに寄り添う形の学校支援活動を行う。			
補助員配置	・心の相談員 ・校内整備員			
実績・期待される効果	現在、毎週水曜日にスクールカウンセラーが来校し、児童の様子を観察したり、放課に児童の相談にのったりすることで、児童の状況を把握し、担任に情報提供したりアドバイスしたりしている。また、スクールソーシャルワーカーも毎週木曜日に来校し、保護者や担任と、面談する機会を設けている。さらに、令和6年9月からははあとラウンジスタッフも配置された。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、はあとラウンジスタッフに加えて心の相談員を配置することにより、児童にとって「身近に相談できる大人」が増え、心の健康を保つことが期待できる。こうした相談活動が不登校傾向児や教室不応児童が教室に向かうきっかけになるなど相談員を常時配置する効果が表れている。常時、相談室を開くようになって、8年目となる。「校内はあとラウンジ」は、不登校傾向児童や教室不応児童の心の居場所として、しっかり定着している。 また、本事業により、学校支援活動が一層活発になり、児童が楽しく安全に学ぶ学校になると考える。地域講師、地域学校共働本部ボランティア、校内整備員等の方々の協力を得て、個別に配慮が必要な児童への支援が細かく行き届くとともに、学習環境が整い、児童が健やかに学べる環境をつくることができる。			
検証方法	・1の相談体制の充実、2の学校支援活動、については、児童、担任、保護者の感想やアンケートから検証する。			